

ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取西部） １０月号

１．地元の味を子どもたちに伝える「とっとり県民の日献立」

９月１１日、米子市の「とっとり県民の日（９/１２）献立」の取り組みに協力し、米子市内の小・中・特別支援学校など３５校に特産の大山ブロッコリー１００キロを給食用食材として無償提供した。

給食には、「大山こむぎコッペパン」や大山ブロッコリーを使った「星取県サラダ」、白ネギを使った「白ネギの星空スープ」、「二十世紀」梨などが並んだ。



２．地元の特産学ぶ。ブロッコリー食育授業・地元特産の栽培に挑戦

大山町立大山小学校で９月７日、地元の農産物や農業などを学ぶ総合学習授業の一環として児童を対象に特産ブロッコリーの食育授業を行った。

種まきから収穫・集荷・スーパーなどに並ぶまでの流れ、大山ブロッコリーが取得している地域団体商標やＧＩ（地理的表示）登録などについて分かりやすく解説した。

また、９月１４日には地元生産者やＪＡ鳥取西部担当者らが協力し、同校の児童に大山ブロッコリーの生育や栽培方法などを説明し、定植作業を指導した。

児童は「苗を植える深さの加減が難しかったが、上手くできた。収穫が楽しみ。きらきらしたブロッコリーになってほしい」と目を輝かせていた。



３．ストック運営委員会 新たな需要あり

ＪＡ鳥取西部ストック部会は米子市のＪＡ本所で９月１０日、役員会を開いた。

会議では令和２年産の集荷日や運賃について協議・承認し、９月下旬の初出荷を見込み、１０月５日出荷会議を開くことを決定した。さらに、「コロナ禍による葬儀の密葬化やブライダル、イベントの中止や規模縮小で需要の低下が懸念されているが、小売専門店、販売店での新たな需要が伸びている」と市場からの情報を伝えた。



4. 秋冬どりブロッコリー販促PR強化へ

秋冬ブロッコリーのシーズンを迎えるJA鳥取西部は9月28日、大山ブロッコリー井戸端(サポート)会議担当者会とブロッコリー部会運営委員会を開いた。

担当者会では、新しい販促資材の作成や青年部へのスキルアップ資材配布などの取り組みを報告した。大山ブロッコリーブランドのさらなるPR強化を目指す。

